

FROM
TURKEY



トルコ海軍の新型コルベット ヘイベリアダ デビュー

ヘイベリアダのトップビュー。ステルス設計で船体、上構は傾斜面で構成されており、突起物もなくすべてエンクロースされている。小型ながらヘリコプターも搭載する汎用沿岸戦闘艦だ



前甲板より艦橋方向を望む。ヘイベリアダは、どこなくアメリカ海軍のフリーダム級LCSに似ている気がするのだが、いかがだろうか



後下方より見たヘイベリアダの上部構造物およびレーダーマスト。格納庫上にはRAM発射機が見える



フライトデッキには、カーチス・ライト・フロー・コントロール・アシストシステムが装備されている。ハンガーにはトルコ海軍現用のS-70Bヘリコプターが収容できる



まるで大型機のコックピットのような航海艦橋。最近の艦艇の例にもれず、自動化、ハイテク化が図られている。ウインドガラスはレーダー反射対策で金属被膜が付加されている

2003年、トルコ海軍司令部は国防産業部局とともに、トルコ国産軍艦建造プロジェクトMILGEMの検討を開始した。このプロジェクトは2004年6月に公にされ、1年後に設計案の提案要求が発せられた。このプロジェクトは、6隻の「ブラク」級コルベットと5隻の旧「ノックス」級フリゲイトを代替するもので、12隻の建造が予定された。

2006年、MILGEMプロジェクトの1番艦となる「ヘイベリアダ」の建造は、ペンディクのイスタンブール海軍工廠で行われることになった。「ヘイベリアダ」は、2007年1月22日に起工され、2008年9月27日進水、2010年11月2日より海上公試が開始され、2011年9月27日、ついにトルコ海軍に就役した。

続いて2番艦の「ビュクアダ」は2008年9月27日にイスタンブール海軍工廠で起工され、2011年9月27日進水、2013年9月27日に海軍に引き渡される予定。3番艦の「ブルガザダ」も間もなく起工される

予定である。やけに9月27日が多いのはもちろん偶然ではなく、この日は474年前のプレヴェザの海戦を記念して、トルコ海軍記念日となっているからだ。

ヘイベリアダは全長99.56m、全幅14.40m、満載排水量2300t。最大の特徴は昨今の艦艇の標準といえる、レーダーステルス対策が盛り込まれていることである。船体と上構はコンピュータ計算に基づくレーダー反射を極限するためのデザイン。水中放射音響の低減にも配慮されており、エンジンは二重防振マウントに搭載され、スクリューもキャビテーションノイズの低減が図られている。

武装にはオットー・メララ76mmコンパクト砲1門、RAM近接防御SAMI基、Mk56 VLS (ESSM 24発)、ハーブーンSSM8発、324mm連発魚雷発射管2基を装備。S-70Bヘリコプター 1機を搭載する。ヘイベリアダ級 (MILGEM型) コルベットは、初の国産建造軍艦として、トルコ海軍とその造船産業に新たな歴史を刻んだ。



ヘイベリアダのCIC。コルベットとしては標準的なサイズだろうか。ずらりとコンピュータコンソールが並んだ、最近ではおなじみの光景が見られる



士官公室。シンプルながら高級感のあるデザインだ。壁には航海中のヘイベリアダの絵が掛けられている。向こう側に掲げられている肖像は、もちろんトルコ共和国建国の父、ケマル・アタチュルクである